

授業科目名	発達障害と医療	単位数	1
担当教員名	内田千代子	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)	精神科医師としての医療		
<p>「学位授与の方針」との関係 本科目は、特別支援教育の科目であり、星槎大学の学位授与の方針（A から F）を満たしている。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ 最近、発達障害についての関心が高まってきており、適切な理解と対応が必要とされている。 発達障害は人生の早い時期に社会的諸関係のなかで現れる障害であり、その原因は脳機能障害にある。診断名としては、自閉スペクトラム症（ASD）、注意欠如多動性障害（ADHD）、限局性学習障害（SLD）、知的能力障害群（ID）などがある。発達障害では知的には遅れのない例から、重度の遅れを伴う例まで幅広い分布を示す。本講座では発達障害の特性や本質を理解し、発達障害児・者の社会的不適応をどうしたら減らすことが出来るかを考える。特に医学的に現在究明されている点を理解するとともに、他の分野との連携などについても学修する。</p>			
<p>授業の概要 内容としては、発達障害とはなにか、心と行動の発達についての見方、脳の構造と働き、医学的検査、心理と行動のアセスメント、発達障害の症状と働きかけの原則、薬物療法の目的および副作用などについてである。</p>			
<p>授業計画 第1回：最近の社会的話題 第2回：発達障害はどう位置付けられているか？ 第3回：発達障害の特性と社会適応 第4回：発達障害をめぐる法的な状況 第5回：子どもの心の発達とは？ 第6回：発達障害と診断 第7回：発達障害各論（1） ASD 第8回：発達障害各論（1-2） ASD 第9回：発達障害各論（2） ADHD 第10回：発達障害各論（2-2） ADHD 第11回：発達障害各論（3） SLD 第12回：発達障害の併存疾患（1） 第13回：発達障害の併存疾患（2） 第14回：発達障害とライフステージにおける支援（1） 第15回：発達障害とライフステージにおける支援(2) 定期試験</p>			

スクーリングでの学修内容

発達障害の医療について知り、発達障害について理解を深めることは日常的に発達障害児・者に接する際に参考になる。教育的関わりを持つ際にも、医療的な知識を習得しておくことは、必要なことである。医療をはじめ福祉、教育等の他分野との連携を深めることは、発達障害児・者により良い対応ができることにつながる。具体的なケースを中心に考えていきたい。

教科書

市川宏伸 監修 『発達障害キーワード&キーポイント』 金子書房 2016年

参考文献

授業の際に紹介する。

学生に対する評価

スクーリング評価（50%）、科目修得試験（50%）を総合して評価する。